

## 第46回車座集会（幸区）摘録

- 1 開催日時 令和元年11月21日（木） 午後3時～5時
- 2 場 所 川崎市立幸高等学校
- 3 参加者等 参加者31名、傍聴者等30名 合計：61名

### <開会>

司会：定刻となりましたので、ただいまから第46回車座集会を始めます。

本日の司会を務めさせていただきます幸区役所企画課の中村と申します。よろしく願いいたします。

本日は、「幸区のミライを語り合おう～住み続けたいまち・さいわい～」をテーマに、将来のまちづくりの中心的役割を担う中学生、高校生の皆さんにグループワークを行っていただき、話し合った内容の発表を行った後、市長と参加者の皆さんで意見交換を行っていただきます。

本日、参加いただく生徒の皆さんは、南河原中学校、御幸中学校、塚越中学校、日吉中学校、南加瀬中学校、幸高校、総合科学高校の生徒の皆さん23名です。どうぞよろしく願いいたします。

また、地域で活動される方にもご参加をいただいておりますので、紹介をさせていただきます。

NPO法人studio FLAT理事長、大平さん。古川町内会会長、加藤さん。元区民会議委員、こども会連合会副会長の神谷さん。株式会社北野書店代表取締役、北野さん。ダブルケアかわさき事務局長、高安さん。幸区PTA協議会副会長、館さん、古田さんです。どうぞよろしく願いいたします。

次に、行政からの出席者を紹介いたします。

福田紀彦川崎市市長、関敏秀幸区長でございます。

初めに、福田市長から一言ご挨拶を申し上げます。

### <市長挨拶>

市長：改めまして、皆さん、こんにちは。

今日は46回目の車座集会となり、毎月各区を回って、いろんな人たちと意見を交わしていますが、46回目にして初めて中学生と高校生と一緒に参加する会となりました。今まで中学生の方が参加してくれたり、参加者が高校生のみで開催した会はありませんが、中高生と一緒にというのは初めてで、大変楽しみにしています。また、地域の皆さんにもご参加をいただきまして、本当にありがとうございます。

幸区の人口は17万人ぐらいいますが、ゼロ歳から14歳の方って大体どのぐらいいるかって、見当つきますか。

答えを言ってしまうと、幸区の場合13%ちょっとです。でも、後ほど古川小学校の映像が出てきますけど、その地域は17%から20%近くあって、結構若い人たちが多い地域なんです。

私たち、川崎市役所も、幸区役所も、どうしたらみんなにとって住み続けたいまちになるか。良いまちになるかということをして仕事としてやらせていただいておりますけれども、果たしてこの13%だとか、あるいは20%ぐらいの若い人たちの意見ってどれぐらい聞いているかなということ、実はそんなに聞いていないんじゃないかと思っています。実際、46回目にして初めてと言ったように、なかなか中高生の意見、どのようにまちのことを思っているのかということを知るチャンスが、残念ながら、余りないというのが現実です。ですから、今日は、住み続けたいまち幸区にするためには、どうしたらいいのかという、自分なりにどう思っているのかということと一緒に考えて、そして一緒に行動していく、その

ようなきっかけになれば、大変ありがたいなと思いますので、よろしく願いいたします。

(拍手)

#### <区の現状・課題等説明>

司会：次に、区役所から幸区の現状と課題等についてご説明をいたします。説明は、企画課の二瓶からさせていただきます。

幸区：幸区役所企画課の二瓶です。どうぞ皆さん、よろしく願いいたします。

市長からもこの地域は、非常に若い世代が多いというお話もありましたが、そんなところも踏まえまして、説明します。

まず、川崎市では、市民の皆さんにどれだけ川崎市への愛着があるか、誇りを持っているかをアンケートしています。これを都市に対するシビックプライドと呼んでいます。

その中で、愛着の項目と誇りの項目がありますが、愛着という項目については、単純に愛着だけではなくて、「今後も住み続けたい」、それから「細部までいろいろ市内、区内を知っています」ということを愛着としています。誇りという項目については、誇りを持っているということに加えて、「自慢したいことが幾つもある」、それから「市や区に貢献している」ということを誇りと呼んでいます。

4,000件以上のアンケート結果として、幸区は愛着と誇りのスコアが毎年高く出ています。この結果の理由について、区民の方に聞いてみたところ、「幸区って交通の利便性がいいよね」、「中原区に行くにしても、川崎区に行くにしても、南武線でどこでも行けるよね」、「バスが縦横無尽に走っている」、「交通や買い物の利便性が高いんですよ」というような話を伺いました。

また、愛着や誇りが高まる要因の一つとして、もう一つ分析しますと、生まれてからずっと長く幸区に住んでいるといった方たちのほうが、愛着や誇りが高まる傾向にあることです。

幸区は、川崎市7区の中で高齢化率が一番高い区です。若い世代が多い一方で、高齢化率も高いところから分析しますと、長く住んでいる方が多いという傾向が見てとれます。

若い世代の割合に関しましては、ここ3年間の平均で40歳未満の若い世代の人口増加率が、ここ3年間で平均すると、実は7区の中で一番この若い世帯の人口増加率、伸び率が実は一番7区で高いんです。僕は正直言いますと、武蔵小杉に大きなマンションができていますので、中原区かななんて思ったんですけども、実際数字をいろいろ見ますと、幸区は若い世代の、特に県外から引っ越しされて新たな幸区区民になっている方が多いというのがあります。

ちなみに、先ほど、幸区の人口が17万人というお話もありましたが、17万人という規模がぴんとこないかもしれないですけども、例えば17万人の都市で言いますと、ディズニーランドがある浦安市や鎌倉市と同じくらいなんです。そういった中で、幸区は小さい区ではありますが、ぎゅっとした中に17万人の皆さんが住んでいる。そんな区になります。

また、幸区は市外や県外からお引っ越しされてくる方が多く、毎年、1万人ぐらい転入してきて、新しい区民になっています。スライドにある古川小学校では、子供の数が右肩上がりの状況です。新しく引っ越しされている方が、この近くにマンションに住まわれる方が多く、古川小学校は今、小学校の児童の数が1,000人を超える大きな学校になっています。そういった新しい住民の方と、古くから住んでいる方が入りまじっているようなところで、古川小学校の児童に「自分たちの住むまちにあったらいいな」、「こんなことができたらいいな」という意見を事前に聞いてきましたので、今から見てもらおうかと思います。

(映像放映)

幸区： 古川小学校の生徒から、ベスト4の発表がありましたので、詳細を説明します。

一つ目は、ボール遊びが自由にできる場所が欲しいという意見。内容を具体的に聞いてみたところ、野球やサッカーのほか、バスケットゴールが欲しい、ドッジボール大会を開いてほしいという声も上がっていました。

二つ目は、大きなグラウンドや遊具のある公園が欲しいという意見。具体的には、アスレチックパークが欲しいとか、二輪のキックボードやジェイボードをやりたいという意見がありました。

三つ目は、夜店の復活。昨年度まで塚越の商店街で年6回、お祭りをやっていたそうです。それが、今は年1回になってしまったと。子供たちからはこの夜店が復活して欲しいという話がありました。

最後は、地域の祭りや塚越フェスが盛り上がりしてほしいという意見。これは塚銀フェスという地域のイベントやお祭りが盛り上がりしてほしいな。そんな子供たちの意見が寄せられました。

そのほかにも、誰でも参加できる運動のイベントですとか、フロンターレやブレイブサンダースの選手との交流。自然が少ないという案もありました。また、ボール遊びができる公園も欲しいけど、小さい子やお年寄りがゆっくりできる公園、こちらも大切だよと、そういう意見もありました。

ほかにもたくさんの意見をいただきました。例えば目の前に海が欲しいとか、ラゾーナ鹿島田なんというご意見もありました。古川小学校の生徒からは、そんな小学生ならではおもしろい意見も含めて、非常にたくさんの意見をいただきました。

この後は、古川小学校の声も参考にさせていただきながら、中高生の皆さんに若者目線で自分たちの暮らすまちにあったらいいものであるとか、まちでやってみたいことなど、グループワークでお願いしたいと思います。

(グループワーク)

テーマ1：自分たちの暮らすまちにあったらいいものや、まちでやってみたいこと

テーマ2：テーマ1の内容が、これまで実現できていない理由

テーマ3：思いを実現できるまちにするためには何が必要か。自分たちには何ができるか。

司会： それでは、各グループから発表をしていただきたいと思います。

初めに、1グループからよろしく願いいたします。

1班： テーマ1の自分たちの暮らすまちにあったらいいもの、まちでやってみたいこととして、施設という視点では、「ネット依存症などの依存と向き合える施設」や、「食事をしたり、勉強したり、自由につながる施設」、「遊園地、アスレチック、他の娯楽施設」、また音楽のまちなので、「室内ストリートピアノを置きたい」などの意見が出ました。

学校という視点では、「学校のトイレをきれいに」や「学校の校庭の開放」などが挙げられ、公園という視点では、「ボールで誰もが遊べる公園」などが挙げられました。

ほかには、イベントで「子供から大人までかかわれる行事や場所をふやすイベントがふえてほしい」という意見や、「緑をふやしてほしい」という意見もありました。

テーマ2の実現できていない理由として、「遊べる場所が少ない」、「ルールが決まっていないため、危険度が高くなってしまう」、「防球ネットなどの安全面を考えた道具を買うためのお金がかか

ってしまう」という意見が私たちの班で出ました。

テーマ3の思いを実現できるようにするには何が必要かという意見では、「ボランティアの募集や学校での参加」という意見が出ました。

また、公園のルールなどについては、「年齢や場所、時間などにルールをつくったらよいのではなか」という意見や「そのためにはお金が必要だ」という意見が出ました。

情報発信については、「ポスターや学校で作る地域新聞、CMなどを活用したらどうか」という意見が出ました。そのほかの意見としては、公園にネットを張って安全に配慮にしたり、地域のお店を利用する回数をふやして、活性化させるなどの意見が出ました。

これで発表を終わります。

司会： ありがとうございます。次に、2グループから発表をお願いします。

2班： 私たち2グループでは、自分たちの暮らすまちにあったらいいもの、まちでやってみたいこととして、公園の面では「ボールを使って遊べる公園が欲しい」という意見が、ごみの面では「多摩川付近でのごみが少し気になるので、ボランティアをしたい」という意見が、交通の面では「道幅をもっと広くしてほしい」などの意見が出ました。また、イベント系では、「スポーツ大会をやりたい」など、いろいろなイベントをやりたいという意見が出ました。

テーマ2のこれまで実現できていない理由として、環境的な問題では「少し前にあった台風などの災害があったということ」などが出ました。団体の理由では「主催が決まらない」という理由が出ました。ほかには、認知がされていないという面で「危ない場所への対処が余りできていないから」という理由が出ました。また、お金の面で「コストがかかる」、場所の面で「場所がない」という理由が出てきました。

実現するために何ができるかということで、2班は話し合ってきましたが、まず、私たちができることとして、「周囲の人たちに思いやりを持つこと」と、「自分たちで解決できるところは解決すること」のかなと思います。ごみとか交流とかの問題については、積極的に地域とかで開催されている交流の場や、ボランティア活動、区などが主催しているアンケートに積極的に参加することで、自分たちの意見が実現するのかなと思いました。

最後に、私たち自身が思っていることというのは、やっぱり言葉にしないと伝わっていかないと思いました。多分、市とか区に直接伝えるのは難しいことだと思うので、まず学校の先生とかに相談して、そこから市とか区とかに意見が届けば、私たちのやりたいことや、あったらいいことが実現すると思えました。

司会： ありがとうございます。次に、3グループから発表をお願いいたします。

3班： これから僕たち3班の発表を始めます。

まず、テーマ1の僕たちの暮らすまちにあったらいいもの、まちでやってみたいことについて話しました。多く出たのが公園で、やっぱり大きなグラウンドやボール遊べる場所が欲しいという意見が出ました。次に、施設などで子供やお年寄りなどが交流できる場所が欲しいという意見が出ました。その他については、川崎市のバスの遅延証明書が欲しいという意見なども出ました。

これらのことが、これまで実現できていない理由としては、公園や施設を新たにつくる場所がないという意見が多くあがりました。ほかにも、スタッフの人手不足なども多くあがりました。

これを実現するためには、土地の面でいうと、土地の整備や有効活用が必要だという意見が出ました。

テーマ3について、公園では、お年寄りの協力や遊具に年齢制限をつけるなどといった工夫が必要だと考えました。ルールについては、そのまちの声を聞くなど、交通ルールの意識改善が必要だと考えられました。

司会：ありがとうございました。

最後に、4グループから発表をお願いいたします。

4班：私たち4グループでは、公園や道路、スポーツ施設、テーマパークがあったらいいなという話になりました。公園は、ボールが使える公園、球技ができる公園がほしいということでした。道路は、歩道と自転車が分かれている道路など出ました。テーマパークについては、このあたりは観光地が余りないので、つくってほしいという意見です。スポーツ施設は、テニスコートや野球場が欲しいという意見が出ました。

これまで実現できていない理由について、公園のボール利用などは危険だという意見が出ました。また、場所がなかったり、コストがかかるという意見が出てきました。

想いを実現できるまちにするためには何が必要かというところでは、ルールを決めたり、改めて使う側の私たちがルールを確認したりするという意見が出ました。公園をつくったりするには、話し合いも大事だということも出てきました。

<市長との意見交換>

司会：ありがとうございました。それでは、これから市長との意見交換に移らせていただきます

市長：皆さん、立派な発表をありがとうございました。余りにも立派でびっくりしました。おそらくこちらを見ていただいた大人のほうも、ある意味、驚きとともに、すごく頼もしく思ったことと思います。

改めて1グループから4グループまで、僕の印象として、ちょっと振り返らせてもらいたいと思いますが、古川小学校のところでも、まず一番多かったのが、ボールが使える公園、思いっきり遊べる公園が欲しいというのが第1位だったというのと同じように、ここに集まってもらった中高生でも、やっぱり数的には公園が多いなど。ボールが使える公園、みんな安全で楽しく遊べる公園、運動ができる場所がふえてほしいなど、たくさんの意見をいただきました。

一方で課題としては、土地がないよねという点。先ほども発表にあったように、幸区は17万人の方が、この中にぎゅっと入っていると。川崎市自体が今、政令指定都市という大都市の中でも、人口密度が高く、上から2番目です。大阪市に次いで人口密度が高いまちなので、スポーツできるような公園面積というのは限られているというのが現実です。だけど、子供たちが一番やりたいことに、ものすごい制限がかかっている、できていないというのは、僕は大問題だと思っています。少なくとも、「住み続けたいか」、あるいは「自分が親になって、子どもに思いっきりボール遊びをさせることができないと思ったときに、果たしてこのまちが選ばれるだろうか」というと、すごく不安になったりします。ですから、確かに土地はないと言うけれども、何かできる知恵をみんなで考えようじゃないかと思っています。

実は市長への手紙という、何でも言ってくださいというコーナーがあるのですが、小学生の市民の方からもらう手紙というのは、圧倒的に公園の話、ボール遊びができる公園が欲しいという意見が多

いです。こういう制約がある中で、どういうことができるんだろうなど。さっき、ルールを自分たちで決めていくというのが大事だという意見がありました。自分たちで時間だとか年齢だとかルールづくりができるんじゃないかというふうな話がありました。とってもいいアイデアだと思います。たとえば、野球をやっている隣で、小さい赤ちゃんがいるというのは、ちょっと怖いですがね。ですから、そういう思いやりの配慮があってしかるべきだと思うし、そういうルールづくりが何かできないかなというのを、みんなで、まず一番使っている小中高の皆さん、そして、赤ちゃん、子連れ、それからお年寄り、こういう人たちが一堂に会して、自分たちの地域の公園をどういうふうに使っていこうかというルールづくりをするというのは、少なくともできるのではないかなと思います。

実は2日ぐらい前に、この会があるので近くの公園を見てきました。そうしたら恐竜公園、正式名称で塚越こかげ公園は、公園の管理運営協議会ができていて、曜日と時間で、野球やサッカーなどのルールが決まっていました。それがちゃんと守られているかは、僕は確認できなかったですが、そういうルールづくりになっていましたね。公園の3分の1ぐらいは、小さいお子さんとかがいますので、こっちはボール遊びしないでくださいというようなルールづくりができていた公園もあったので、こういうのが少しでもいろんな公園にできていくと、ちょっと改善できるかもしれないと思います。

また、他に多かった意見は、意外と道路関係が多かったですね。道路が危ないというのがありましたね。歩道の幅を広くしてほしい。自転車専用道路、信号機をふやしてください。暗い道が多い。そんな意見が、結構ありましたね。やっぱりみんなが自転車を使っている、歩いているときに、危ないなという意識が高いんだと、すごくよくわかりました。余り自転車を使っていない年齢層の人たちからは、実は余り出ない意見かもしれません。常にバスを利用している人だとか、日常生活で自家用車を使っている人というのは、その危険性を感じていないかもしれないけれども、皆さんの世代にとって、とても大切だということがよくわかりました。確かに制約はあります。道をそう簡単に広げられるものじゃないですから、その中でどういうふうに安全性をつくっていくかというのは、大切だと思います。例えばカーブミラーをもう少しふやす、あるいはガードレールをつけようというふうなことを、すべての道にガードレールがついたら、逆に使いにくくなることもあると思いますので、ちょっとそんなバランスも考えながら、どこに一番つければ効果的かということを考えていくことが大切だと思います。

それから、4グループの話を聞いていて、すばらしいなと思ったのは、全ての遊具を「危険」にしないという意見だったですね。もう一回発言してもらっていいですか。

4班：遊具が危険だと決めつけている大人が結構多いなと思いました。自分の子供がけがをするということは、嫌だなとは思いますが、「こうしたらケガをする」という学習にもつながるのかなと思ったので、遊具を何でもかんでも否定するのではなくて、けがしたときの大人のその後の対応も含めて、考えることが必要なかなと思いました。

市長：ありがとうございます、すばらしいアイデアで。何でもかんでも危ないからと、最近遊具がなくなりましたが、それは大人の論理だろうというふうな話だったですね。「けがしたら困るから撤去する。そうやってどんどんなくなっていく。それは、大人の論理でしょう」と。だけど、果たして本当にそれが正しい選択だろうか。多少ケガしたとしても、これからケガしないように気をつけて、安全な使い方を学ぼうと、そういう話を議論していて、これはすばらしいと思いました。何でもかんでも危険だからやめようというのはどうなのか。「ボール遊びは危険だからちょっと自粛してください」と、決してだめとは言っていないけど、どう考えてもやめてって言っているような看板が立っているが、ボール遊びの

ことを大人はよく理解していないんじゃないかという意見もどこのグループで聞きました。

子供にとってボール遊びってこんなに大事なんだということを大人の世界はよくわかっているだろうかということ、そうわかってないかもしれない。僕も小さいころ、すごいボール遊びをやっていましたけど、今じゃボール遊びしていません。そうすると、ボール遊びの価値というのが、みんなが思っているほど、大人は価値を感じていないかもしれない。だけど、先ほど言ったように、区民の15%、20%近くいる子供たちの声がまちづくりに活かされていないというのは、すごく残念なことですよ。

さきほど、2グループの意見のなかで、「積極的に意見を言っていこう。いろんな交流をしていこう。」というのがあり、「何をどうしてほしいのか伝えること、あるいはアンケートなどにも積極的に参加しよう、声出していこうと。ただ悶々と思っているんじゃなくて、みずから行動していこう」という、すてきな意見も出ました。こういうことになってくると、世の中変わってくると、僕は思います。

実は僕は高校生のとき、アメリカに住んでいて、まちに信号が2個しかない田舎町だったのですが、僕が高校2年生のときの話です。僕はボーイスカウトをずっとやっていて、そのボーイスカウトの友達が、信号2個しかなく危ないから、三つ目の信号をつけようじゃないかって言い出したんです。そうはいっても、高校生だして僕も全然相手にしてなかったんだけど、本気でやると。高校生で僕たちの仲間を集めて、どうして危ないのかということ进行调查して、親を巻き込み、友達を巻き込み、先生を巻き込みとしていき、最終的には市長と議員の皆さんを説得して、三つ目の信号がついたという経験をしました。本当に驚きました。そんなこと、できるわけないと思ったんです。だけど、実際に1人の高校生の発想から、まちにとって三つ目の信号機がつくという大イベントがありました。実はそうした経験があって、今、こういう仕事に目覚めて仕事しているんですが、ただ要望するだけじゃなくて、自分たちも市民の1人として、どういうふうなことができるだろうかと、これから一緒にもっと考えていきたいなと思っています。

今日は幸区の代表のみんなが来てくれていると思うけど、同じような思いをしている人たちが、少なくとも幸区では2万2,000人ぐらいのゼロ歳から14歳までいらっしゃるんですよ。だから、ゼロ歳のまだ赤ちゃん、言葉がしゃべれない人たちのことまで考えて代弁して、僕たちで考えて議論して、実行に移していくことをやらなくてはいけないんじゃないかなと思っています。

今日は大人の皆さんも来ていただいているので、生徒さんたちが出してくれたすてきな意見を、どういうふうに受けとめたのか、少し感想を聞かせていただきたいと思います。

館さん：私は日吉小学校PTAの会長をやっている館といいます。今日はこの会を非常に楽しみにしてきました。

皆さんの話を聞いて、はじめは公園とか施設とか、何か物に関する話が多いのかなと思ったのですが、物の後ろにある、いろんな人との交流だとか、出会いみたいなことを求めているのかなと非常に感じました。

私も子供が日吉中、日吉小にいる保護者ですので、一保護者としても、いろんな人と交流する場が、幸区としてあると非常にありがたいに思っていますので、そういったところ、市長とお話ししながら、何か実現できていけたらいいかなと思っています。

市長：ありがとうございます。どうでしょう。神谷さん、こども会を代表してじゃないですけど。

神谷さん：幸区のこども会の連合会の副会長をしている神谷です。

南加瀬中学校区の地域協議会でもみんなと一緒に活動していて、こちらのグループにも参加して

くれた方がいますが、ふれあいの会というのをやっていて、大人と中学生がボランティアになって、小学生とか小さい子たちと一緒に、地域の人と遊ぼうという会を十何年間やっています。地域の人たちと触れ合って、自分たちがボランティアになって活動すると、ボランティアって何かおもしろいねという感想や、自分たちも地域の中の一員だという、活動していきたいという意識が芽生えるんじゃないかという声を出してくれていて、私はすごくうれしかったです。

それのほかに、私の地域にはもう何十年か経った市営住宅がたくさんありますが、昔はもういっぱい子供がいて、公園があっちにもこっちにもあって、みんな遊んでいたのに、今誰も遊んでないんですよ。市のものだから、私たちは口出しできないですが、そういう見直しをすると、幾らでもボール遊びができる場所ができたりするのかなと思いました。公園ができたから、もうそれでおしまいという考えはやめて、またそれを見直すということを考えてもいいんだなと、ちらっと思いました。

また、空き家対策の問題もいろいろ出してくれていたのを見ましたが、マッピングして、それは危険の部分もあるのかもしれないけれども、そういういろんな地域をどういうふうにしようとしているのか、子供たちがみんな見ているんだなと思って、そこら辺のところももっともって考える、市のほうも考える部分がいっぱいあるんじゃないかなと思いました。

市長：ありがとうございます。本当にそのとおりで、さっき、どこかのグループで、今ある施設をうまく使ったほうがいいんじゃないかというコメントも見ました。だから、本当にボールを遊びする場所が、本当に公園だけなのだろうかとか、あるいは施設の中で遊べる空間が欲しいという話がありましたが、実は川崎市が持っている建物、あるいは企業や福祉施設が持っている部屋なども、もう少し弾力的に使えるんじゃないかと思います。ですから、もっともって僕たち、市役所もすごく変わらなくちゃいけないなというふうに思っています。

それでは、加藤さん、地元の町会長さんとして、子供さんたちの意見、古川小学校のことで結構ですけれどもお願いできますか。

加藤さん：古川町内会の加藤と申します。

全体的に見て、ボランティアの話も出ていましたが、町内会も役員の方は全員ボランティアです。ですから、学校の中でいろんな地域の問題が出たら、学校の先生を通じて町内会長に連絡をとって、学校と生徒と町内会を巻き込んでいくと、結構前に進んでいくのではないかなとつくづく思っています。

ひとつ古川小学校の例で言いますと、古川小学校は六つの町内会に囲まれた小学校ですが、毎年夏に、6町会が一緒になって納涼子供盆踊り大会を学校の校庭でやっております。これは、地域のこども会の40、50代の若い世代の大人たちが協力し合って、子供たちのためにつくった盆踊り大会で、お店なんかも各代表を出して、盛大に盛り上がっています。

全国的に見ても、6町会で1つの盆踊りとか、こうしたイベントを実施することはすごい難しいことだなと思います。現在までに二十数回やってきて、地域同士でもめたり、いろんなことがあったけれども、なんとかひとつにまとめてここまでやってきているという例もありますので、町内会を巻き込むのは一番いい方法かなとは思っています。

私は町内会とは別に川崎ドッジボール連盟というのを立ち上げて、理事長もやっています。幸区にはドッジボールチームが8チームあり、ドッジボールも小学校の遊びでもたくさんやっていますから、やりたい希望があれば、チームにも入ることができます。そういう子供たちがいたら、どんどん地域に広めて、いい経験ができるんじゃないかなとは思っています。

ちなみに、明後日はYOUテレビ杯という大会があり、テレビ中継が入ります。テレビに映るということは、子供にとってはすごいことなので子供が寄ってくる場合もあります。そんないろんなイベントもあるので、まず町内会を使うことが一番いいかなとは思っております。

市長：ありがとうございます。町会でもいろんなことやっているということですから、ぜひ中高生の皆さんもどんどん参加してもらえればと思います。さっきも色々なグループで、交流したいという意見が出ていましたが、いろんな人たちと交流する、お年寄りと交流したいというふうな意見も出ていたので、そういう意見を逆に町会の人たちにも「子供たちがこう言っていたよ」というふうな話をしっかりと伝えていただきたいなと思います。

もう一回公園の話に戻りますが、小学校の校庭って、開放はされているけど、余り使わないという実態があるんですが、何で使わないのかというのが、ちょっとおじさん視点ではわからないんです。どうして使わないか理由を教えてもらっていい？

生徒：いつ開放されているがわかりにくく、学校だよりとかで書いてあったりするんですが、そういうのを余り見ていないので、余り使えないのかなというのは思います。

市長：何となく使えないんじゃないのって思っている方って、どの位いますか。中学校は部活があるので使えないですが、小学校も使えないと思っている人って、手を挙げてもらえますか。

みなさん、使えないと思っっているですね。

加藤さん：小学校は、施設開放委員会があると思いますが、毎年、登録制で、各町内会、少年野球や少年サッカー、バレーボールやバスケの団体が登録しています。学校によっても違うんですけど、登録すれば可能は可能ですよ。

市長：そうなんですよね。ですから、団体登録するということが必要で、施設開放をやっているところは個人では使えないというふうな形になっているんですけど、みんな団体じゃないから、個人で行きたいよね。仲間と3人でキャッチボールとか、そういう話だよ。

また、学校によって大分異なり、運用の話ですけれども、本当にびっちり使っているだろうか。どなたか詳しい方いらっしゃいますか。

加藤さん：平日は4時以降、学校が終わった以降、開放になるんですけども、大体大人が使っていますね。ママさんバレーとかね。ただ、子供さんになると、夜の部になってしまう。ちょっと夜になったら危ないという点もありますし、やっぱり事故があった場合、責任は誰がとるんだとか、そういうのも発生します。

ちなみに、体育館を使うと有料です。わくわくプラザが校庭を使っているんで、やっぱり使うとしたら、体育館がよいかとは思いますが、土日ですと、古川小学校ではドッジボールチームが3チームあり、丸一日使っていますね。

また、個人登録というのがやっぱり認められていないんです。だから、例えば中学校の名前で登録できるかどうか。あとは、利用人数も条件があり。使った後、利用報告書も書かなきゃいけないので、二、三人でやっている、これはちょっとという問題も出てきます。電気代もかかりますよね。いろんな問題があるので、これはやっぱりこれから考えていく課題かなとは思っています。

市長：そうですね。今、体育館の利用について話をいただきましたけれども、グラウンドのほうはどうかというか、ボール遊びの、サッカーだとかキャッチボールだとか、どこまで個人でできますかといったところに、挑戦できないかなど。例えば空いている時間が、すぐわかれば使う人は増えますか。ほかに課題って何だと思う。そういう個人利用ができるようになったら、みんな使いますか。使わないという人、いますか。1回家に戻ったら、学校に戻りたくないとか、やっぱり公園がいいよとか、学校じゃないよという人はいますか。

みなさん、学校が使えれば、使いたいんですね。

生徒：やっぱり学校に行くと、学童で校庭を使っている子たちが優先になるので、やっぱり校庭を別の子たちが使っていると、どうしてももういいやってなりがちだと思います。

市長：ありがとうございます。それぞれの小学校を調べてみたいと思うんですけど、施設開放のところはどうなっているのか。グラウンドの利用はどういう実態になっているのか、それぞれ区長もちょっと調べてもらっていいですか、幸区内の状況を。

もし個人利用が認められるような仕組みをつくれるんだったら、もうむちゃくちゃ混んで公園でというよりも、少し遊ぶことができるスペースができたらいいなと思いますよね。だから、何かそういう知恵が使えないかなど。

もちろん今、施設開放やっていたところ、そこで回しているところもあるので、なるべく迷惑かけないようにすることも大事だと思いますが、団体だけじゃなくて、個人というところでもう少し何か知恵が出せないかなというのは、ちょっと議論してみてもいいんじゃないかなと思います。

でも、よかった。学校があいていたら、使わないという人がそんなにいなかった。もう一回いいですか。学校、小学校があいていたら、ボール遊びすると思う？小学生の気分になって、あるいは中学生の気分になって、自分だったら、使ったなと思う人。逆に使わないという人、いますか？

何人かいる。ちょっと意見を聞いてみましょうか。

生徒：そもそも私は球技ができないので。

市長：そういう理由ね。じゃあ、もう1人、お願いします。

生徒：家でゲームをしていたほうが楽しいので。

市長：なるほど。そういうのもありますよね。別にみんながスポーツしたいわけじゃないし。なるほど。

今日の会は、区長も考えているんですけど、こういう皆さんの声をどうやってこれから反映していくか、今回の1回だけじゃないんだと。だから、これからも区政に生かしていくという取組の、今日は一つのきっかけだと思います。小学校に行って話を聞いたのも一つのきっかけ、今日も、きっかけ。これからはどうやって活かしていくかというのを継続的にやっていきたいと思っていますので、ぜひ皆さんのこういう意見が何らかの形になっていくということをやりたいと思っています。

せっかく皆さんが意見を出して、何ひとつ実現しないのって、何のために意見を言ったのかという話になるので、ぜひみんなでもいい意見を出して、できればテーマ3で、自分なら何ができるだろうかといったところに、ぜひ皆さんにも取り組んでもらいたいと思うんですね。やっぱりいろんな制約がある。いろんな制約がある中でも、自分たちだったらどんなことができるだろうかと。自分のときはボールが

使えなかったけど、自分の妹や弟や、あるいは自分よりもっと小さな世代の人たちにはボール遊びをもう少しさせてあげたいなって思うよね。だから、そのために、僕もそうだし、みんなも、どういうふうなことができるかということをもみんなで考えて行動していきたいと思います。

今までのところで、北野書店の北野さん、いかがですか。

北野さん：先ほど古川小の生徒さんのアンケートで、書店が近くにないと言われている、まだ認知が広がってない北野でございます。

いろいろ伺っていて、書店や商店街とか、鹿島田の駅の夜店とか、ここ近年でなくなっていっているのは僕らもよくわかっていて、今までまちを挙げていろいろ地域で商店街のお祭りをやるということができなくなっているという現状が実際あるのは感じながら、それは中高校生の方々も、そうなんだなというのが改めてわかりました。

ただ、この間、ハロウィン祭りを鹿島田の駅近くでやりましたが、商店街合同で地域でやりまして、今までと違うというか、ハロウィンという一つのイベントでいろんな地域の方が集まってきたというのを感じました。駅前の近くでいろんな商店が集まって、いろんな催し物をしましたが、やっぱり交流というのがすごく大事だなんて話も聞こえましたし、やっぱり顔の見える何か「ベース」というか、そういうお祭りやイベントがすごく重要なんだろうなとすごく感じたので、我々も商店街としてとか、地域として自治会と一緒になど、そういったことを含めて、何かイベントをやっつけていかなきゃいけないなと改めて思わせていただきました。ありがとうございました。

市長：ありがとうございます。今日は大人の皆さんもせっかく来ていただいているので、ご発言していただいている方からちょっとずつコメントをいただいてもよろしいでしょうか。大平さん、よろしいですか。

大平さん：studio FLATの大平です。よろしくお願いします。

障害のある人のアート活動の支援をしています。実は昨年、幸高校の卒業生の方と、ゆめみらい交流会というのをさせていただいて、そのときに高校生たちと自分たちで地域に何か発表する場所とか、そういうものがあつたらいいですねという話になりました。それが、ちょうどstudio FLATを通して、今、実現に向けて準備をしています。ですので、今こうやって皆さんが出した意見が何年後かに本当に実現するかもしれないので、こういう思っていることを声にするというのはすごく大事なじゃないかなと思いました。ぜひ、実現しそうなことがあつたら、それに向かっていってもらえたらうれしいです。

市長：何か大平さんとしてできることないですか。

大平さん：まさにFLATが今、地域と、あるいは皆さんと交流できる場所になりつつあるので、何か一緒にやっつけていけることがあるんじゃないかなと思っています。ちょうど参加者の生徒さんと一緒に、共同で制作していたアート作品をつくってもらおうという「Color'sかわさき展」という企画をミュージアム川崎のシンフォニーホール4階で展示会をやっているんですけど、そこで今、一緒につくってくれた作品を発表していたりするので、そういうこともFLATを通してやっつけてもらえたらすごくうれしいなと思います。

市長：ありがとうございます。それでは、高安さん、よろしいですか。

高安さん：ありがとうございます。ダブルケアについての勉強会の活動をやっています高安と申します。

「ダブルケア」って余り聞いたことないと思いますが、例えば介護と仕事だとか、皆さんのご両親でも、仕事をしながら皆さんたちのお世話をしたりだとか、あと病気をしながら仕事をしていたりだとか、いろんなケアを生活とか仕事と両立することがどうやったら実現できるんだろうかということを考えて活動をしています。

今日、一番びっくりしたのは、皆さんの議論の見事さというところで、例えば会社の中とかで仕事と介護ってどうやって両立しますかという話をすることもあります、なかなか時間もなくて大変だとか、自分たちが何をできるかという話までスムーズに進まないこともすごくいっぱいあったりするので、こういうふうには上手に、ファシリテーターの方もプロかなと思うぐらい上手な方が多かったですし、やってみたいこと、できない理由、どうしたらいいんだろうというところまで考えられるのがまず本当にすごくなって、鳥肌が立ちましたし、大人たちもしっかりやらなくちゃいけないというふうに思いました。

議論の中で印象に残ったのが、やりたいことはいっぱいあるけれども、人手が足りないんじゃないのかなという話がすごく印象に残りました。私もそういう勉強会の活動をしてみると、やりたいことはいっぱいあるんだけど、忙しくてできませんという大人はすごくいっぱいいたりします。でも、ここに皆さんたちみたいに、やりたいことをどう実現するかということを考えてらっしゃる方々がいるのであれば、私たち自身ももっと胸を開いてみんなと一緒にやるということを考えられたらいいのかなと思いました。

私は北加瀬に住んでいて、コトニアガーデンというところでフェスタというイベントを、春と秋にやっていますが、この間は子供たちと一緒にフリーマーケットをやりました。そうしたら、大人は疲れていてお祭りなども減ってきているかもしれないけれども、子供たちと一緒にお祭りをすると、すごく盛り上がるという体験をしました。ですので、大人たちがちょっとヘトヘトしているときには、みんなの力を借りたらいいんだなとすごく思いましたので、お祭りだったり、ボランティアグループだったり、もっと皆さんのところまで届くように、「私たちも力を貸してください」ということを伝えていきたいなとすごく思いました。すごく勇気づけられました。ありがとうございます。

市長：ありがとうございます。古田さん、お願いします。

古田さん：幸区PTA協議会の古田と申します。

いつもは各学校のPTAの会長さんとお話しする機会が多くて、私自身も母親で、子育てをしていますけれども、なかなか子供たちのために何かをするという活動が最近はできていないかなと思いつつ過ごしています。本当に、中学生の男の子を育てていますが、家ではこういう話って面と向かってはなかなかしないもので、今回、皆さんの意見を聞けることをとても楽しみにしてきました。

私自身の生まれは幸区ではないですが、3歳ぐらいから幸区に住み始めて、何年か幸区を離れていましたけれども、子供が生まれて、子育てをここでしたいなと思ってまた戻ってきて、トータルで、30年近く幸区で暮らしています。ですので、本当に皆さんが学校とか仕事とか、結婚した配偶者との関係などで幸区から離れることがあっても、幸区やっぱりいいよねとか、戻りたいなとか思えるような場所に、今回の意見が繋がるといいなとすごく思っています。

親として思うことですが、今回グループの中で出た意見で、困ったことや、こういうことをし

たいなと思ったら、先生に言おうという話があったのですが、そこに親が出てこれなかったというのがちょっとショックでした。でも、PTAの活動をしていて、ちょっといけないのかもしれないんですけど、親に何ができるかなって、親が十分地域とつながれているかなとか、子供たちがこうしたいんだけどって、困ったことがあるんだけどといったときに、親が解決してあげられていないということがあるんじゃないかなと思います。私自身はそういうことができるだけ少なくなると思いいなと思って、PTA活動や、地域の皆さんとつながる活動を広くさせていただいています。ですので、「親力」というか、本当に子供たちが一番困ったときに、親が最初に相談に乗れる相手でありたいなと常々思うので、親の力を少し上げられるような活動をもう少しできたらいいなと思っています。今日はありがとうございました。

市長：ありがとうございました。

「親力」という意味でPTAの館さんと古田さんにお伺いしたいんですけど、さきほどの、何でも危ないから撤去とか、例えば学校開放とかで、学校の校庭とかの話が進んでいったときに、ケガされちゃったら、責任はどうなるのかというふうな話になると思います。しかし、学校も大変だし、学校の先生も大変ですので、ずっと先生たちがついてるわけじゃないと。親として、さっきまさにおっしゃってもらったように、ケガをしても、ある意味、それも学習でしようがないと、親がそういうふうになれますかということなんですよ。

そのあたりって、みんなはどう思う。ケガしちゃっても、例えば完全に壊れている遊具が校庭の中にあるとか、そういうのは本当にケガしちゃうから困るけど、そうではなく、学校の時間外のときに校庭で転んだ、骨折しちゃったということが、学校の責任問題になるので遊ばせませんよという理由だとすれば、みんなどう思う。それは自己責任だと思う。

生徒：私は、壊れてなければ、自分の遊び方とか身体能力的な意味も含まれてくるので、学校に責任があるのは絶対おかしいと思います。

市長：ありがとうございます。皆さん、どうですか。違う意見の方っていらっしゃいますか。

逆に今、言ってくれた意見に賛成だという方、ちょっと手挙げてもらっていいですか。

まさに全員ですね。ちょっとPTAのお立場ということではなくて、一保護者としてどういうふうに思われるか、ちょっと発言していただいてもいいですか。

館さん：もし自分の子供がケガをしたら、どう思うかとちょっとイメージしてみると、私が子供のときも、たくさんケガをしていましたので、それも勉強のうちの一つだろうと考えられると思うんですね。

ただ、やっぱり保護者の中にもいろんな考えを持つ人もいますので、学校の責任を問うという声も出ると思うんですが、そこはPTAとして親同士が勉強し合って、そういう考えもある一方で、子供たちのためになっているんだよというのを逆に伝えていくのが、PTAとしてのあるべき姿なのかなと思います。

市長：ありがとうございます。古田さん、どうですか。

古田さん：親として、遊ばせる場所であったり、子供の遊び方についても、そのルールを教えることは大人の、親の責任だと思っていますので、きちんとした遊び方で遊べるとか、これをしたら絶対に危なく

なるよということを、最初から身につけていきさえすればいいことであるし、学校の責任を問うということはないかなと思います。ただ、館さんも言っていましたけど、どうしてもいろんな考え方の親がいますし、状況とか、あとは学校との関係ということもあるので、一概には言えないところがあります。

今、PTAにも参加していただけない親御さんも多い中で、参加していただければ、こういうふうを考えるといいんだなというようなことも親同士の交流で持てると思うんですけど、ちょっとそういうところが少なくなっているの、やっぱり親の責任をもうちょっと見直せるのがいいかなと思います。

市長：ありがとうございます。実はこれって市役所でも、例えば公園なんかで明らかに遊具が壊れているということであれば、市の責任は当然だと思うんですが、公園で起きた事故ということが、これは市の責任みたいな話になると、ちょっと私は違うんじゃないかなと思うことって結構あります。だけど、先ほどから出ているように、危ないから、もうやめましょと、どんどん遊具等がなくなってしまうと、結局、誰のための公園だったのかわからなくなってしまう。ボール遊びもだめ、これもだめというふうになったら、公園って誰のためにあるんだろうと。むしろ本当に誰も使えない公園になってしまうと、それは、みんなにとって一番不幸ですよ。それは、子供たちだけじゃなく、大人にとっても不幸な話だと思います。ですから、そういったものを乗り越えていかなきゃいけない。そういった意味では、今、お二人が言っていた通り、皆さんからのいっぱい意見も出ていましたけど、やっぱりルールづくりというのをちゃんと関係者の皆さんとやっていかないと。一方的に何かを決めたということではなくて、関係者の皆さんとしっかり議論して、自分たちのルールを作っていくという、ちょっと時間はかかるかもしれないけど、そういうことをしっかりやっていかないといけないなというふうに思いました。なかなか学校から、「私たちは責任ありませんから、もう勝手にやってください」というのは学校としては言いづらいです。だけど、それぞれの立場で、「こういうことが心配だな」というふう意見を、「いや、それはこういうことでやれば、心配いりません」という形で、全てが解決できなかったとしても、「こういうルールでやっていきましょうよ」ということにならないと、みんながハッピーにならないんじゃないかなと思うんです。

そういった意味でも、ぜひ皆さんの意見というのは、大切な意見です。ですので、これからも意見を出してもらいたいし、参加してもらいたいし、いろんな人たちの理解を得るには、例えば自治会町内会の皆さんがどういうことを日々やってくれているのか、そういうことも、みんなにもわかってもらいたい。パトロールをやっていたり、公園の管理をしてくれていたたり、日常の中で起こっていることは誰がやっているんだろうということを理解すると、「僕はここができる」、「私はこれができるかな」というふうな自分もできるちょっとな話が出てきて、それが少しずつ重なり合うと、みんなが住みやすいまちになっていくんじゃないかなというふうに思います。ですから、繰り返しになりますが、今日、本当に素晴らしいご意見を大人の方たちからもいただいて、また受けとめていただいて、ありがとうございました。

もう時間になってしまいましたから、まとめになりますけれども、今日はきっかけなので、ぜひこれからも参加してもらって、行動してもらって、まちに出てもらう、参加してもらってということをお自分事としてやってもらうと、みんなのちょっと下の世代の子供さんたちは、今よりもはるかにボールを使える地域になっているかもしれないし、それは僕たち次第だと、ここに集まっている人たちだけじゃなくて、まち全員の私たち次第だというふうに思います。

今日は参加いただき、本当にありがとうございました。

(拍手)

区長：最後に、市長がまとめた後に話すのは非常につらいところですが、まず、中高校生の皆さんの声を私たちは今まで聞いていなかったという反省がありました。多分、中高校生の声を市政にどこまで反映させていたのかなというのは、今までちょっと疑問にあったところなんです。市長とお話ししたところ、そうだね、意外と聞いてないよねという話になり、今日こういう機会で見聞をいただき、いいきっかけになりました。皆さんの声を聞いて、少しずつでも住みやすいまちへと進めていきたいと思いますが、ぜひ皆さんが参加するということが大事なのかなというふうに思っています。

皆さんの力を貸していただいて、まちの方たちと私たちがつなげますので、一緒に幸区をよくしていきたいというふうに思います。必ずフィードバックしますので、よろしくお願いします。

(拍手)

<閉会>

司会：ありがとうございました。それでは、以上をもちまして第46回車座集会を終了いたします。本日はご来場いただきまして、まことにありがとうございました。